
ニジェール紛争難民の生活・学習機会提供のための
Inna Houseにおける難民救助強化事業



Inna Project(インナプロジェクト)

本日の発表内容

- 活動の背景 活動国 / 難民の子どもたちのルーツ / 難民の生活
- 団体のミッションと活動内容
- 本事業の概要 / 必要性 / 自立性・主体性
- SDGsとの適合
- 資金の使途
- 実施日程

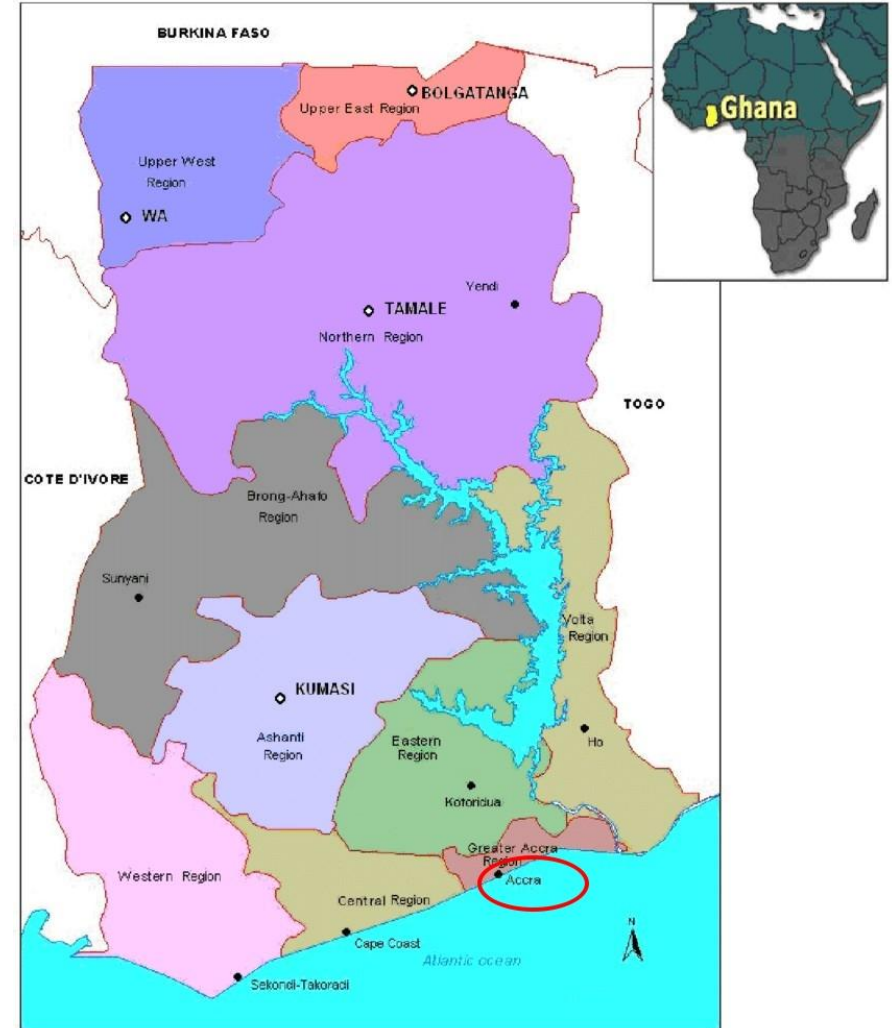


活動国



ガーナ共和国

西アフリカ地域の中で最も安定しており、原油
商業生産によってアフリカ最大の経済成長率を
誇ります。



トゥアレグ族



アルジェリア、リビア、ニジェール、マリなどのサハラ砂漠の遊牧民。
ラクダや、羊、山羊など動物と共に生活する。
約50年前に始まった鉱物資源をめぐる紛争により、
住む場所を奪われ、現在も武装集団から襲撃を受け続けている。

避難先のガーナでの生活



木材とビニールで作った簡易的な住居での生活



建設が放棄されたモスク。大人たちはここで生活している。
寝ている間に泥棒に入られることもしばしば

物乞いをする子どもたち



初期の活動

- ・スラムの子どもたちへの食糧配布
- ・子どもたちの見守り

子どもたちは深夜から早朝にかけて、繁華街で物乞いをする。収入が悪いと親から暴力を受けるため、そのまま路上で仮眠をとる。



路上で眠っている間にマラリアにかかったり、暴力を振るわれたり、誘拐事件に遭うこともあった。

Inna Project 活動趣旨

ミッション

- ・「物乞いの連鎖」を終わらせる。
- ・全ての子どもたちに無限の選択肢と可能性を。

物乞いの連鎖:

子どもが物乞いをして稼いだお金で生活

→子どもたちは物乞い以外に生きる手段を知らない。

→やがて大人になり、自分の子どもにも物乞いを強制

→その子どもも、親になり自分の子どもに物乞いをさせる

物乞い以外の方法で将来子どもたちが生きていけるように、
子どもたちの将来の選択肢を広げるため、2021年、
ニジェール紛争難民の子どもたちの家「Inna House」を設立



ニジェール紛争難民の子どもたちの家 Inna House

生活面でのサポート



- ・食事の提供
- ・衛生的な生活環境

警備員と調理員を雇用。

深夜でも子どもたちがいつでも逃げ込むことができる「駆け込み寺」としての役割。

食材は地元のマーケットから仕入れ、貧困地域の経済活性化にも貢献。



学習面でのサポート



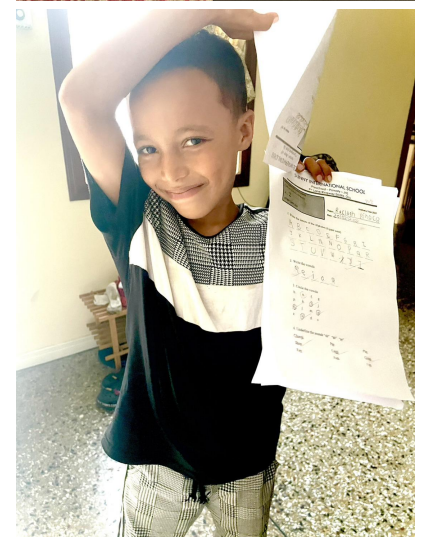
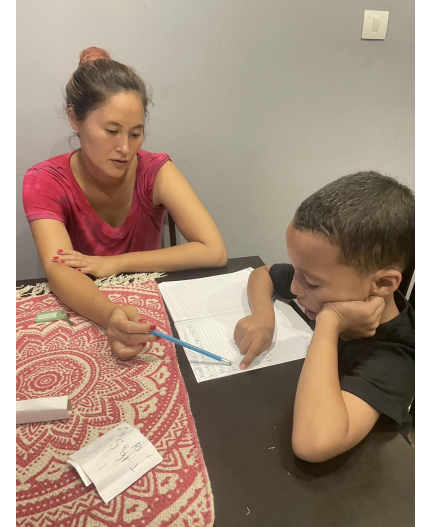
- ・読み書き
- ・計算
- ・環境教育
- ・性教育
- ・社会科見学

現地NGOなどと連携し、子どもたちの将来の可能性を広げるための課外活動も積極的に実施。

現在のInna House



放課後の学習サポート



2022年12月、Inna Houseを移転。
より多くの子どもたちを受け入れる体制整備。
紛争難民の全ての子どもたちが学校に通えるようにすることが目標。
2023年1月から徐々に入学者数を増やしている。
日中は全ての子どもたちのためにInna Houseを解放し、
ボランティアスタッフが読み書きや計算を教えている。



ニジェール紛争難民の生活・学習機会提供のための Inna Houseにおける難民救助強化事業

内容:

毎月3名難民の子どもたちをInna Houseで保護し、
学習と生活全般をサポートする。

目的:

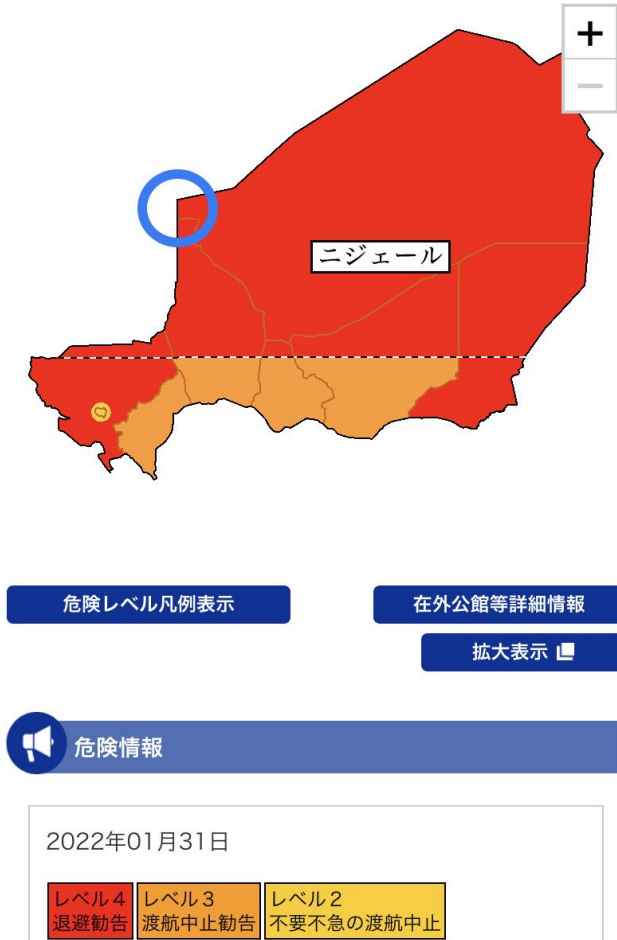
ニジェールからガーナへ避難してくる紛争難民の子どもたちに安全で
衛生的な生活環境と学習の機会を提供。

Inna Houseでの学習や学校での学びを通して物乞い以外の広い世
界を知り、将来自分の子どもにも物乞いをさせるという「物乞いの連鎖」を食い止めること。



Inna Houseを求めて4日間かけてニ
ジェールから避難してきたマーフィ
ンくん。
紛争の最中に最愛のお父さんを
失った。
今年7月にRingway Estate
Preparatory Schoolに入学。

事業の必要性



例年乾季になると武装集団の活動が活発になる

(9月から西アフリカは乾季に入る)。

トゥアレグ族の村は例年乾季になると繰り返し襲撃を受け、

ニジェールからガーナへ避難してくるトゥアレグ族の人数も増加。

ニジェールから避難Unna Houseでの生活を希望する子どもたちは多い。

彼らがガーナ国境まで避難してきた時にすぐに受け入れられる体制を整える必要がある。

◀外務省海外安全ホームページより

子どもたちの故郷のあるTarbiyatという地域は画像の丸の部分。

危険レベル4で退避勧告が出ている

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_116.html#ad-image-0

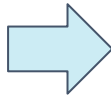
自立性・主体性

Inna Houseで生活する子どもたちの学習意欲と好奇心は非常に強く、どんどん世界を広げていっている。

救助した子どもたちをInna House保護し学習の機会を提供することで、「物乞いの連鎖」を食い止めることにつながる。



物乞いをしていた頃は、
「学校」というものすら知らなかった



学校行事

「キャリア・デイ」の様子

物乞いしか生きる方法を知らず、将来の夢なんて考えたこともなかった子どもたちが、目を輝かせて将来になりたい職業の服装をして行事に参加。

彼らの夢を叶えるためにも、Inna Projectの目的である「物乞いの連鎖」を終わらせるためにも、この活動を継続させる必要がある。

SDGsとの適合



紛争難民の子どもたちを保護し
学習機会を提供する当事業は、
子どもたちの命を守り、貧困と飢餓を防ぎ、
衛生的な生活環境の提供に寄与する。

資金の使途

科 目	予算額	内 訳
備品購入	371,400	2段ベッド6台 61,900×6
	117,600	マットレス12枚 9,800×12
	264,000	洋服棚6台 44,000×6
	43,500	机3台 14,500×3
	80,400	椅子12脚 6,700×12
消耗品	38,400	ブランケット12枚 3,200×12
	26,400	枕12個 2,200×12
	67,200	枕・ベッドカバー24セット 2800×24
	43,200	バスタオル24枚 1,800×24
	28,800	フェイスタオル24枚 1,200×24
	13,500	救急セット3つ 4,500×3
人件費	84,800	現地スタッフ日当 800円×106日(9月～1月)
運搬費	53,400	家具搬入運送費
合 計	1,232,600	

<収入>

科目	予算額	
自己資金	732,600	会費および寄付
申請金額	500,000	
合計	1,232,600	

実施日程

月	活動内容
8月	・難民受け入れに向けて準備（中期スタッフ募集、面接、家具のオーダー） ・週2回のスタッフミーティング（毎月継続） ・新たなインナハウスのルール表作成 ・9月～10月受け入れの難民用の家具・生活用品の搬入
9月	・新規スタッフ雇用（1名） ・難民3人受け入れ ・週1回の家族会議（子どもたちと。毎月継続）
10月	・難民3人受け入れ ・9月に来た子どもたちとの個人面談（より安心できる環境を提供するため、生活の変化と精神状態の変化について調査） ・11月～12月受け入れの難民用の家具・生活用品の搬入
11月	・難民3人受け入れ ・9～10月に来た子どもたちとの個人面談
12月	・難民3人受け入れ ・9～11月に来た子どもたちとの個人面談